



冒険はまだ始まったばかり



おっと危ない



山小屋での夕食



雪の中って最高!



グループごとに明日からの予定を確認



準備万端 さあスタートだ



不慣れなスノーシュー でも楽しい



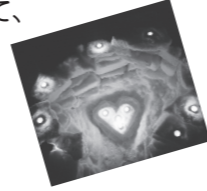
仲間と励まし合いながら

雪中ラッセル編

～目指せ山小屋！ 満喫しよう冒険生活～

平成23年2月25日～27日

小学校1～6年生15人が参加し、西別岳山小屋での冒険生活を体験しました。スノーシュー(西洋かんじき)を履いて、6.7キロの雪道を歩き、電気も水もない山小屋で宿泊。非常食などを利用した夕食作りも行いました。山小屋周辺では雪の中でたっぷり遊んだほか、スノーキャンドル作りなどにも挑戦しました。



かわいい子には体験を！
～子どものころの体験は人生の基盤～

教育委員会社会教育課 社会教育主事 奥村利之

「かわいい子には旅させろ…」と私が子どものころに大人は、よく言っていた記憶があります。

先日、独立行政法人国立青少年教育振興機構からリーフレットが送付されてきました。

内容は、国立青少年教育振興機構で、子どものころの体験によって得られた資質・能力について、成人(20～60代・5,000人)を対象に調査を実施。併せて、青少年の自然体験や生活体験・習慣の実態や自立に関する意識などについて、小学4年生から高校生(約19,000人)を対象に実施した調査結果について提示したものでした。

子どものころの体験が豊富な人ほど、大人になってから人間関係能力などの資質・能力が高い傾向にあることや、規範意識、文化的作法・教養や自尊感情、意欲・関心と関係していることなど、お手伝いやさまざまな体験が大切であるという調査結果でした。

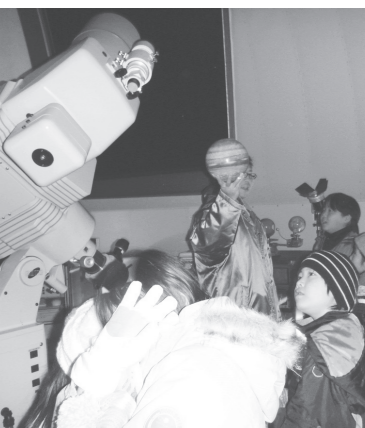
近年、社会が豊かで便利になる中で、子どもたちの自然体験や社会体験、生活体験が減少している状況を踏まえ、子どもたちの健やかな成長にとって体験がいかに大切であるかを、家庭や地域社会が認識し、取り組んでいかななくてはならないのでしょうか。

冒険小僧たちが駆け抜けた季節



てしかが冒険隊

『てしかが冒険隊』の今年度下半期の活動を、先月に引き続き紹介します。この活動は、非日常生活や集団生活など冒険的活動を用いながら、心豊かでたくましく生きる力や、ふるさと愛を育むことを目標に町教育委員会が主催し、保護者や町内外の方々の協力や支援をいただきながら行っています。取り組みには「自分に自信を持ち、たくましく育つ」と「ふるさと愛を育む(ふるさと教育の推進)」という2つのねらいがあり、それぞれのねらいに沿ったプログラムがあります。今回は、自分に自信を持ち、たくましく育つ活動「あのまちこのまち編」「雪中ラッセル編」について紹介します。



音別では星空の観察も



フィッシャーマンズワームMOOで



浜中町教育委員会の方から
浜中町のことについて聞く



釧路市子ども遊学館に到着



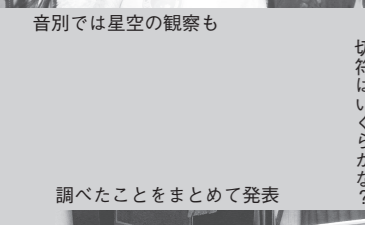
初めて(?)の銭湯体験

あのまちこのまち編

～くしろ 冬の大きな三角形? 1△～

平成22年12月25日～29日

小学校1～6年生21人が参加。釧路市・浜中町・釧路市音別を舞台に、グループごとにJRで移動し、調べ活動を行いました。JRの時間をはじめ、バスの運賃や目的地までの道順など、全て自分たちで調べて活動しました。訪れた先では、それぞれの市や町の特徴を学ぶなど、グループのメンバーみんな協力し合いながら、普段できない活動に挑みました。



切符はいくらかな?
調べたことをまとめて発表



釧路市教育委員会の方に質問



茶内駅を目指す 次の行き先は釧路



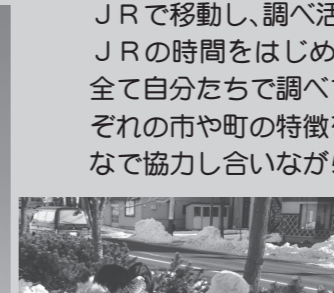
ネットジャングルでご満悦



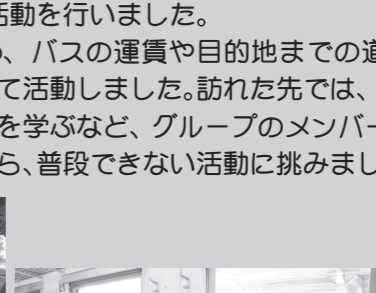
ロッククライミング小僧現る



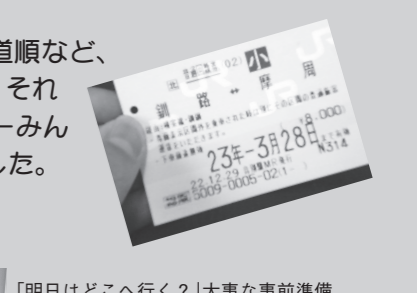
力を合わせて目的地へ到達



地図で行き先を調べる



移動の列車の中でも下調べ



「明日はどこへ行く?」大事な事前準備